





## 6 初期導入設定情報を作成する

本装置をインターネット装置として運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindows XP/2000が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

- 1 Windowsマシンを起動する。
- 2 フロッピーディスクドライブに添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をセットする。  
インストール/初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。

- 3 エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール (CSNConf.exe)」を起動する。

初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。

- 4 管理PCから本装置にログインする際のパスワードを設定する。

- ① 初めて設定する場合は本装置に添付の「管理者用パスワード」に記載されたパスワードを入力する。
- ② adminでログインする場合のパスワードを設定する。
- ③ ②で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。
- ④ [次へ]をクリックして次に進む。

- 5 ネットワークの設定をする。

ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。LANポート2(eth1)は初期導入のセットアップを完了後、Management Consoleの[システム]→[その他]→[ネットワーク]で設定できます。オプションLANボードを増設した場合、増設したLANボードがeth0として認識されます(内蔵のLANボードはeth1とeth2になります)。

- ① タイプミスのないように各値を入力する。
- ② セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。
- ③ [次へ]をクリックして次に進む。

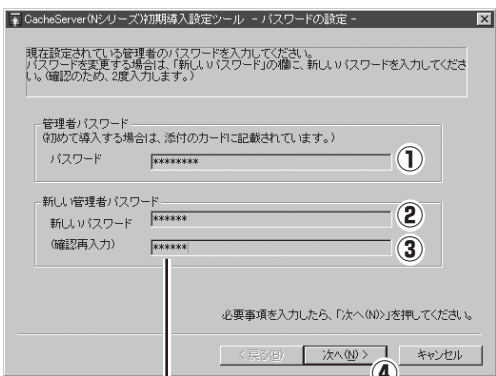
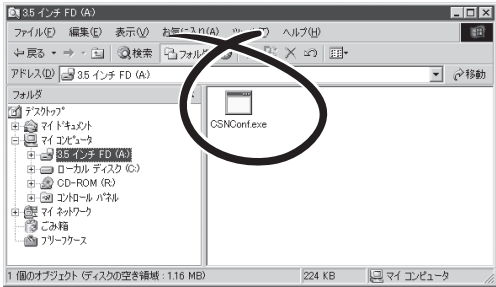
- 6 [完了]をクリックする。

入力した内容がインストール/初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

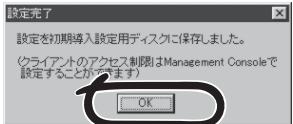
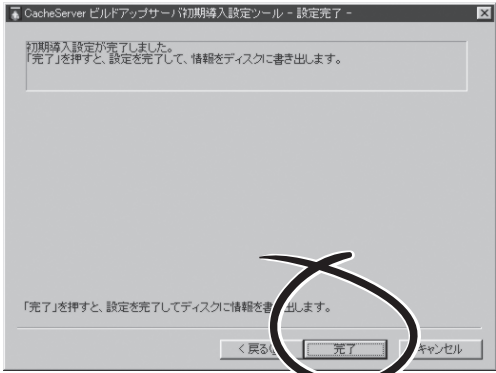
設定内容を変更したいときは、[戻る]をクリックしてください。

- 7 [OK]をクリックし、インストール/初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出す。

インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。大切に保管してください。



パスワードは画面に表示されない(「\*」で表示される)ため、タイプミスのないように注意する



## 7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

- 1 本装置のLANポート1コネクタ(eth0)とネットワーク環境として使用するハブにLANケーブルが接続されていることを確認する。
- 2 ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。
- 3 本体の電源をONにする。

セットアップを開始します。2～3分ほどで完了します。

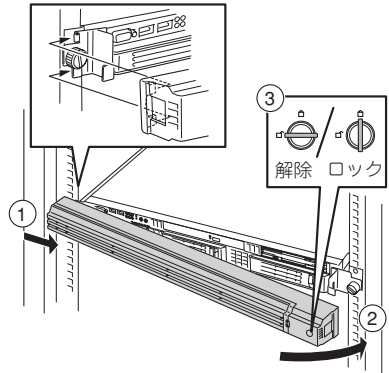
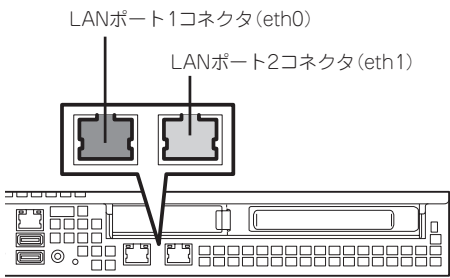
- 4 フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

セットアップに失敗した場合はピープ音を鳴らした後、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使ってインストール/初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。

エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」-「セットアップに失敗した場合」を参照してください。それでも解決できない場合は保守サービス会社にお問い合わせください。

- 5 添付のフロントベゼルを取り付けてセキュリティキーでロックする。

セキュリティキーは大切に保管してください。

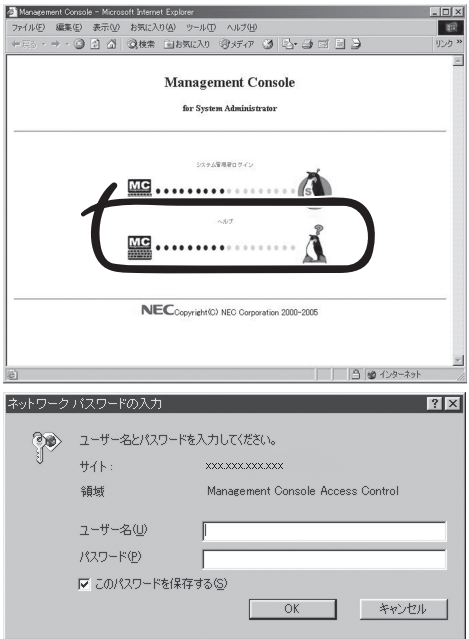


## 8 システムにログインする

クライアントPCのWebブラウザからネットワークを介してシステムにログインします。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

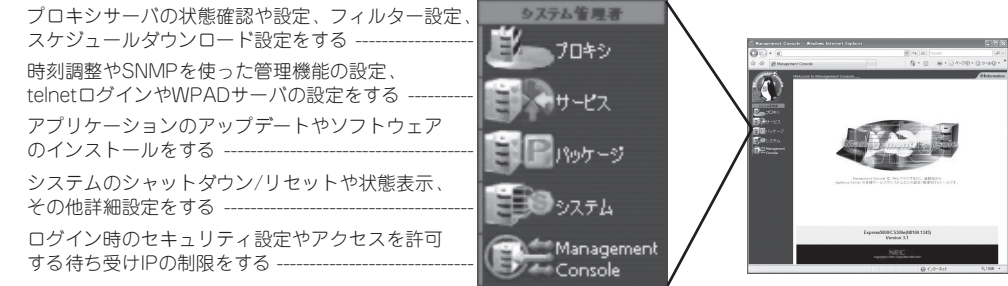
- 1 クライアントPC上でWebブラウザを起動する(Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2(日本語版)・Microsoft Internet Explorer 6(日本語版)<推奨>・Netscape Communicator 7.0以降(日本語版)のいずれか)。
- 2 Webブラウザの設定を確認する(「プロキシを経由させない」・「キャッシュ機能を使用しない」)。
- 3 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
- 4 [システム管理者ログイン]をクリックする。

- 5 ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。  
管理者用のトップページが表示されます。



## 9 各種セットアップをしてシステムをアップデートする

Webブラウザに表示された画面からさまざまなシステム設定ができます。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。



本装置のシステムを最新の状態にアップデートします(購入時のシステムバージョンによってはアップデートをする必要がない場合もあります)。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

- 1 システム管理者メニューの「パッケージ」をクリックする。
- 2 [オンラインアップデート]をクリックする。
- 3 [ユーザ認証]に必要な項目を入力し、[送信]をクリックする。

基本サポートサービスを購入された場合のみ入力してください。サービスを購入していない場合は、何も入力せずに[認証しない]をクリックしてください。

公開されているアップデートモジュールの一覧が表示されます。モジュールを選択して[適用]をクリックしてください。以降がメッセージに従って操作してください。

## 10 NTPの設定をする

キャッシュデータの有効期限の判定が正確に行えない場合がありますので、プロキシサーバ本体を含めたシステム全体の時刻同期、NTPの設定をお勧めします。Management Consoleのトップページから[サービス]をクリックします。

表示された画面より[時刻調整(ntpd)]をクリックすると、設定画面が表示されますので、設定を行います。

## 11 ESMPro/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア[ESMPro/ServerAgent]がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップCDにあるESMPro/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。  
<バックアップCD-ROM>:/nec/Linux/esmpro.sa/doc/users.pdf  
接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

## 12 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」に含まれています。管理コンピュータのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの2章または5章を参照してください。

以上で完了です。